

第5回 高松城跡天守台見学会

～ 修理中の石垣を見よう ～



写真1 解体前の天守台石垣

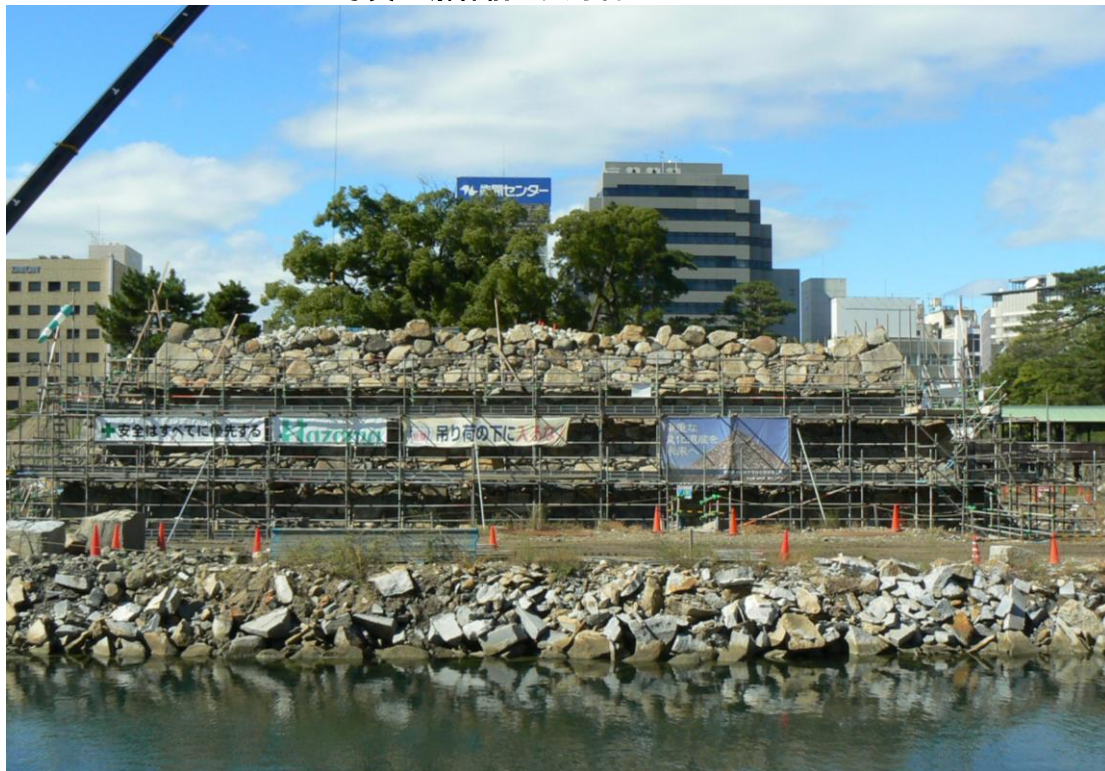


写真2 積直し工事中の天守台石垣(10月26日撮影)

平成22年12月11日
高松市・高松市教育委員会

1 天守台石垣解体修理について

高松城跡は築城から約420年が経過しており、石材の劣化や度重なる地震により石垣によってはハラミ・ズレ・ヌケといった現象が見られる。石垣の危険度を把握するため、平成16年度に高松城跡の全石垣について調査を実施した。この調査により、天守台石垣が最も危険であることが確認され、石垣の解体修理を行うことを決定した。18年度はその準備作業として、作業ヤード及び解体石材仮置き場として使用するために内堀を埋め立て、玉藻廟の解体・記録保存、天守台上部の発掘調査を実施した。19年度に解体工事、20年度に周辺地盤の補強を行い、21年度から積直しを実施している。本年度は積直しをさらに進め、現在は全体の半分程度積直しが完了している。今後は23年度に石垣積直しを完了し、24年度に上面の仕上げを行う予定である。



写真3 天守台石垣破損状況

表1 工事予定表

	平成18年度				平成19年度				平成20年度				平成21年度				平成22年度 ～23年度			
埋め立て																				
発掘調査																				
石垣解体・立会調査																				
修理方法の検討																				
周辺の地盤補強																				
石垣積直し																				

2 修理工事の概要

- (1)工事期間：平成21年7月2日～平成24年3月16日（予定）
- (2)対象面積：1,591 m²

3 工事工程

- (1)準備工 平成21年7月2日から開始
吸出し防止層設置・足場設置・各種調査準備など

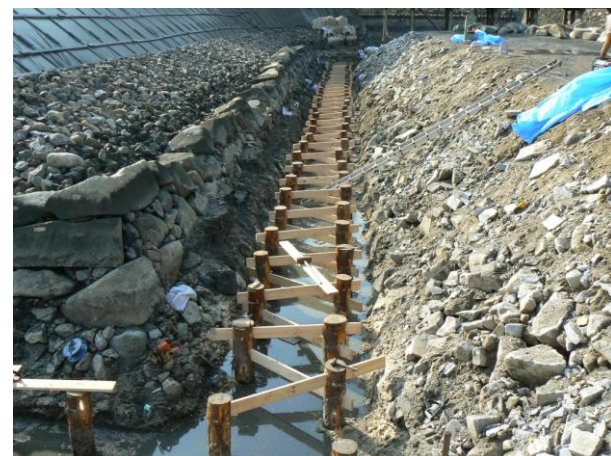


写真4 杵工による地盤補強状況

基礎の脆弱性を補強するため、伝統工法である杵工による地盤補強を実施



写真5 吸出し防止層設置状況

潮の干満による石垣内の盛土の流出を防ぐために、裏込栗石と盛土の間に設置

(2)積上げ工 平成 21 年 8 月 20 日から石垣積上げ実施

石垣石材 1 段（概ね高さ 60 cm）ごとに下記工程を繰り返し（全 23 段）

①築石石積み

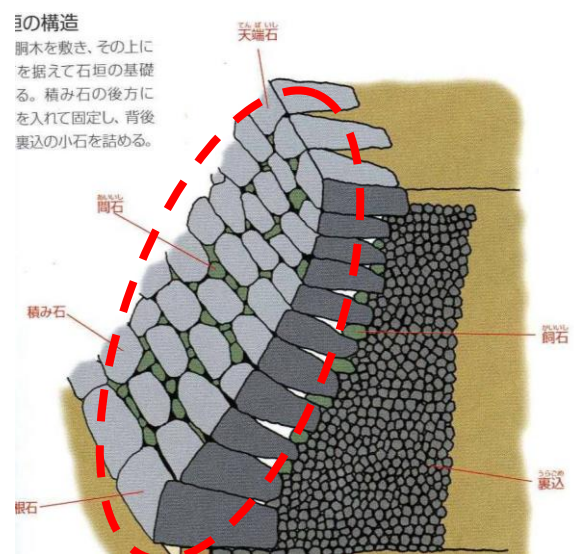


写真6 石垣積直し状況

クレーンで一石ずつ設置。原則解体時の位置に戻し、破損した石は新しい石材に交換する。

②裏込栗石充填

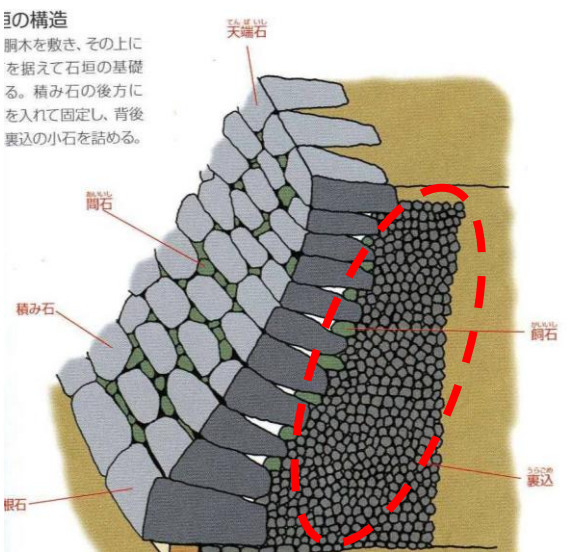


写真7 裏込め栗石設置

発掘調査で検出した厚みを基準にして、築石の背面に施工。

②盛土充填・転圧

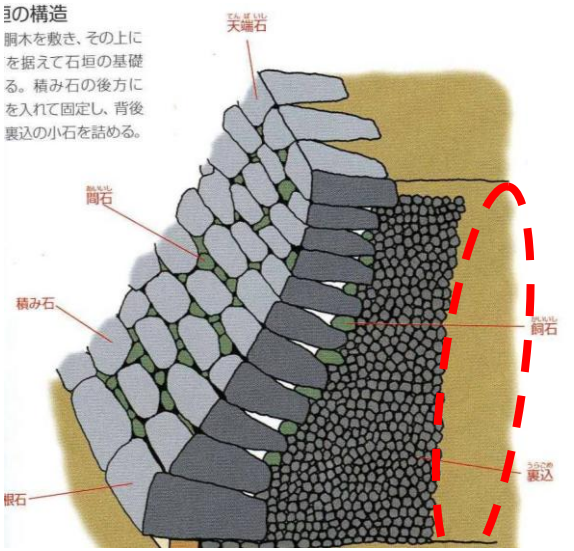


図 1 石垣の構造

※三浦正幸 2005『城のつくり方図典』挿図を一部改変

4 平成 22 年度の調査成果

(1)中川櫓南側石垣の確認（写真 10）

平成 22 年度の発掘調査で、下図に示した範囲において地中に埋没していた石垣を確認した。古絵図の表現を参照すると、今回検出した石垣が中川櫓と呼ばれる櫓の南側（本丸内側）の石垣である可能性が極めて高い。石垣は後世に大部分が崩された状態であったが、石垣に隣接して立方体に加工された礎石を検出している。「旧高松御城全図」「讃岐国高松城図」等の表現を見ると、中川櫓の西側には中櫓という櫓が存在し、櫓間に門が設けられていたことが判っている。こうした資料から、検出した礎石は櫓間に設置された門の礎石である可能性が考えられる。今回の発掘調査で、高松城の建造物配置がより明確になったといえる。

なお、過去の発掘調査でも、天守台の地階で明治 35 年に建設された玉藻廟の基礎などが確認されており、廃城以後に天守台付近で大規模な改変がなされたことは明らかである。今回発見した石垣が崩れ埋没した要因も、この時期の改変による可能性が高いと考えられる。

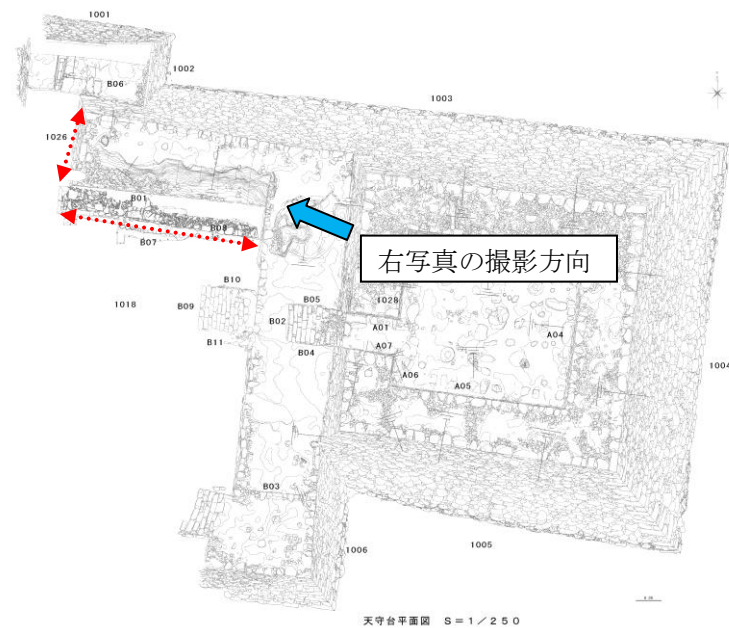


図2 石垣検出位置図



写真9 本丸内側石垣検出状況

